

みあと

都跡公民館だより

11・12月

発行：(公財) 奈良市生涯学習財団
都跡公民館
〒630-8032 奈良市五条町 204-1
TEL / FAX : 0742(34)5954
https://manabunara.jp/
miato@manabunara.jp

講座案内

★新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で開催します。感染拡大防止のため、中止・延期になる場合があります。

de 愛♪みあとサロン

秋のうたを楽しもう！

日時 11月19日(土)
13時30分～14時30分

会場 奈良市立都跡公民館 2階大会議室

費用 無料 申込不要・自由入場 ※人数制限有

出演 (公民館自主グループ)

・ポプラの会&ひびき

共催：都跡公民館自主グループ連絡協議会 (以下 自主協)



その他の行事 11・12月

申込不要

なかよし文庫 ※本の貸出など〈全12回〉 10:00～15:30

11/19(土) 絵本の読み聞かせ他 (10:30～11:30)

12/17(土) 協力：都跡公民館図書ボランティア

移動図書館 (あおぞら号) 13:45～14:30

11/16(水)、12/14(水)

みあと子育てサロン〈全12回〉 10:00～12:00

11/16(水) にこにこ会プログラム

12/21(水) ♪メロディ・アリサ♪のクリスマス会

レクリエーションボッチャ教室

ニュースポーツのレクリエーションボッチャ
ルールを学んで体験しましょう！！

日時 12月17日(土)

令和5年 1月21日(土)

2月18日(土)

いずれも 13時30分～15時

会場 奈良市立都跡公民館 2階大会議室

費用 無料

講師 奈良ニュースポーツ協会 共催：自主協

対象・定員 市内在住・在勤・在学小学生以上 16人

申込締切 11月30日(水) 必着

要申込

ホ

申込方法 ※申込多数の場合抽選となります。

①往復はがきに 講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、都跡公民館

〔〒630-8032 奈良市五条町 204-1〕まで郵送。

②奈良市生涯学習財団ホームページ「参加申込フォーム」より

③窓口でのお申込みの際は、返信用のはがき(63円)をお持ちください。

★詳細は、公民館まで気軽にお尋ねください★

こんな講座やっています♪

秋も深まり紅葉の季節、新型コロナウイルス感染症も小康状態となりましたが、感染対策を徹底しながら開催しました。



みあと幸齢者学級 みんなで決めた年間計画に沿って様々な学習をしています。10月は、唐招提寺の年中行事をテーマに、同寺の執事長の石田太一さんをお招きしてお話いただきました。年中行事の成り立ちや、人々に寄り添いながら長く続けてこられた行事を楽しく丁寧に教えていただきました。



みあときつずチャレンジ隊 地域の小学生を対象に、大学生や若手社会人たちが(若者隊)が様々な企画をして、子ども達とともに実行する講座です。8月は防災をテーマに防災士の丹羽賢一郎さんに様々な災害とその備えを教わり、若者隊が作った防災スゴロクで遊びました。9月は、奈良市指定文化財旧田中家住宅にて、かまどでご飯を炊き、昔遊びや竹で箸作りをしました。

★若者隊(18歳～20代)新規メンバー募集中。興味のある方は公民館まで。



写真で語るミャンマーのくらしと文化 語り手として現地出身の三田メイさん(さんだ たかひろ)写真家の三田崇博さんをお招きし、ミャンマーでの衣食住や結婚式などについて美しい写真とともに話をいただきました。また、軍事クーデター後の現地の情勢や人道支援、平和への願いが語られました。

裏面に続く



みあと子育てサロン 毎月1回、第3水曜日に、民生委員・民生児童委員さんの協力を得ながら開催しています。9月は、日本3B体操協会 公認指導士 田村恵美子さんの指導により、親子で楽しく体を動かしました。10月は、おはなし会の後、公民館の裏庭の畑でサツマイモ掘りをしました。



夜の学び～世にも奇妙な『日本霊異記』～ にほんりょういぎ 平安初期に奈良の薬師寺の僧であった景戒きょうかいが編んだ『日本霊異記』を題材に、講師に同寺の主事・唯識学寮 研究員の高次喜勝たかつぎ きしろうさんをお招きし、その時代背景、人々の生活や考え方などを全2回にわたり読み解きました。



de 愛♪みあとサロン 本年度2回目の開催は、中秋の名月の日に、奈良の民話を語りつぐ会、みあと♪オカリナ隊（公民館自主グループ）によるお話し会と演奏会をしました。民話の語りに惹き込まれ、オカリナの響きに心震わせるひと時となりました。（共催：自主協）

ふるさと「都跡」の宝

かわべりゅうこう

『河邊隆光』つてご存知ですか？

東大寺の大仏・大仏殿の元祿復興げんろくとその七

一、大仏殿を支える柱

皆さん、大仏殿にお参りされる際にはあの大きな屋根を支えている柱を、ぜひじっくりとご覧ください。何か普通の柱と違うなと感じると思います。そこには、元祿復興の跡があり、それを知って頂きたいのです。

二、柱が普通のもものと違う

大仏殿の柱の直径は、どれくらいだと思われませんか。なぜ鉄輪をはめ、くさびを打っているのでしょうか。それは、どこを探しても巨木が見つからずに困った元祿の人々の苦勞の跡なのです。巨木がなかったため短めでも直径五〇センチ前後の材（この材木を探すのも一苦勞でした）を三・四本つなぎ、その外側に扇型の板を当てくさびを打ち、鉄の輪を巻いて一本の柱とし、屋根を支えているのです。見上げてみて下さい、一本の柱にいくつ鉄の輪が巻かれていてでしょうか。

三、屋根裏に二本の巨木が

実は、我々からは見えない屋根裏の虹梁こうりょう※1に、直径二メートル近い巨木が二本使われているのです。この巨木、何と一七〇〇年頃、日向国（宮崎県）の霧島山系の「白鳥神社」付近で見つかった長さ五十四メートルの赤松、その木なのです。しかもその運搬が大変で、薩摩藩と有志の動力で海路千キロ以上を木津まで運び、そこから陸路を十二万人の協

力で、東大寺まで運ぶのに約八カ月かかったというのです。よくぞ運ばれたものですね。このような材木に支えられて、大仏殿があるので

四、大仏殿棟札が語る立役者

むなふだ

大仏殿の棟札※2は、昭和の大修理の際に降ろされましたが、さすが大仏殿の棟札、長さ約二メートルに及ぶ堂々たるものです。

その棟札の記事を読むと、中央に正崩しを墨書。その下に「奉再造東大寺大仏殿」、その右下に公慶と公盛の名を記し、その対照の位置に幕府の修理工事担当者名を記し、一段下に十三行にわたり大仏の発願から今回の復興までの経緯を記しています。そしてその最後に行を改めて、この棟札の書いた人と文章を作った人の名があります。

その人とは「真言新義僧祿前大僧正隆光誌」。これでお判りいただけただけでしょう、今見ることが出来る大仏殿を復興した人が、誰であったかということが…。

（ふるさと「都跡」を語ろう会 溝邊文昭）



写真：東大寺大仏殿の柱

注釈

※1 虹梁（こうりょう）

大仏殿の三千トンの瓦屋根の重さに耐える横向きの梁（はり）材。

※2 棟札（むなふだ）

創建や修理の記念に建物内部の棟木や梁など高所に取り付け、建築の責任者・重要事項を記した木札。

ふるさと「都跡」を語ろう会
活動は、原則毎月第1火曜午後から
<http://miato.seesaa.net/>

奈良市生涯学習支援サイト <http://manabunara.jp>
「公民館だよりバックナンバー」など都跡公民館のページを見てね！

